

ぺん水が出たんだけど、お腹の子供がゆらゆら腹の中でゆれゆれしている時にも「水稲刈り」なんて、大水の時の稲刈りをやったもんだよ。

まあ、寝る間も何もなかったね。雨が降ろうが風が吹こうが、魚は休まなかった。大風の時だけは休みだったけど。

夫婦喧嘩もやったね。毎日毎日苦しくて、特に腹の中に子どもがあった時など、辛かったからね。ある時におやじさんが船に乗って、私に船を押させて云うんだから、

「あんたが竿を押したらいいだろう。」
なんて言ったら、

「何でえ、おめえ、おれにつつかえしをするのか。」
なんて言いがま、竿で私の肩をこくり殴ったんだよ。それから、私は

「じゃあ、おれはおりっから。はたかれはたかれ行くのはいやだから。」
って云ったら、

「降りたらいかっぺ、降りたらいかっぺ。」
って云い云い、槽をこいでいる。降りるっていいながら、どんどん沖へ行っちゃもうんだもの、あんた降りられやしねえだらうよねえ。ハハハハ。そうやって夫婦喧嘩しな

がら魚をやりやりしたんだよ。

楽しいことなんて、ひとつも覚えがないねえ。苦しい事、悲しい事ばかりでねえ。

一度だけ水ん中へつっぺえてね、ぶくぶくつくし棒と一緒に沈んちゃって、それでも、水の上に顔を出したら、おやじさんは、

「あれ沈んだまま浮いてこねえかと思ったら、浮いてきちゃったなあ。」

なんて云って笑ったことがあったよ。
その頃は、水はきれいだったねえ。水の底はすけて見えるし、魚も泳いでいるのがよくわかったよ。水なんか船に積んでいく人なんかいなかった。アカ汲みっていうのがあるだろう。あれで湖の水をすくって、ガバッと飲んだんだよ。今はひどい水になっちゃったってきいてっけどねえ。

(石田町のつねさんの自宅で録音)